令和６年度

シ　ラ　バ　ス

（講義概要）

土浦協同病院附属看護専門学校

専門分野

専門分野(66 単位　2130 時間)

1.ねらい

各看護学及び在宅看護論の基礎となる基礎的理論や基礎的技術を身につける。
看護の対象と呼び目的の理解、予防、健康の回復、保持増進及び疾病・障害を有する人々に対する看護の方法を学ぶ。

2.科目構成

	科目名	単位数	時間数	履修年度	項
基礎看護学	看護学概論	1	30	1 年次	
	看護倫理	1	30	1 年次	
	看護場面に共通する技術	1	30	1 年次	
	看護過程	1	30	1 年次	
	フィジカルアセスメント	1	30	1 年次	
	環境調整技術	1	30	1 年次	
	活動・休息援助技術	1	30	1 年次	
	食事・排泄援助技術	1	30	1 年次	
	清潔援助技術	1	30	1 年次	
	診療の補助技術	1	30	2 年次	
	臨床看護総論	1	30	2 年次	
	地域・在宅看護論Ⅰ	1	15	1 年次	
	地域・在宅看護論Ⅱ	2	30	2 年次	
	地域・在宅看護論Ⅲ	1	30	2 年次	
	地域・在宅看護論Ⅳ	2	30	2 年次	
		17	435		
成人看護学	成人看護学Ⅰ	1	30	1 年次	
	成人看護学Ⅱ	1	30	2 年次	
	成人看護学Ⅲ	1	30	2 年次	
	成人看護学Ⅳ	1	30	2 年次	
	成人看護学Ⅴ	1	30	2 年次	
	成人看護学Ⅵ	1	30	2 年次	
老年看護学	老年看護学Ⅰ	2	30	2 年次	
	老年看護学Ⅱ	1	30	2 年次	
	老年看護学Ⅲ	1	30	2 年次	
小児看護学	小児看護学Ⅰ	2	30	2 年次	
	小児看護学Ⅱ	1	30	2 年次	
	小児看護学Ⅲ	1	30	2 年次	
母性看護学	母性看護学Ⅰ	2	30	2 年次	
	母性看護学Ⅱ	1	30	2 年次	
	母性看護学Ⅲ	1	30	2 年次	
精神看護学	精神看護学Ⅰ	2	30	2 年次	
	精神看護学Ⅱ	1	30	2 年次	
	精神看護学Ⅲ	1	30	2 年次	

		科目名	単位数	時間数	履修年度	項
看護の統合と実践		チーム医療	1	30	3 年次	
		医療安全	1	30	3 年次	
		災害看護　国際看護	1	30	3 年次	
		看護統合技術	1	30	3 年次	
臨地実習	基礎看護学	基礎看護学Ⅰ実習	1	45	1 年次	
		基礎看護学Ⅱ実習	2	90	1 年次	
		基礎看護学Ⅲ実習	2	90	2 年次	
		地域･在宅看護論	2	90	3 年次	
	成人老年看護学	成人老年看護学Ⅰ実習	2	90	2 年次	
		成人老年看護学Ⅱ実習	2	90	2 年次	
		成人老年看護学Ⅲ実習	2	90	3 年次	
		成人老年看護学Ⅳ実習	2	90	3 年次	
	小児看護学	小児看護学実習	2	90	3 年次	
	母性看護学	母性看護学実習	2	90	3 年次	
	精神看護学	精神看護学実習	2	90	3 年次	
	看護の統合と実践	統合実習	2	90	3 年次	
			49	1695		

＊実習については、実習要項を参照。

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">看護学概論</td><td>単位数</td><td>1</td><td>授業形態</td><td>講義、＊グループワーク</td></tr>
<tr><td>講師名</td><td colspan="2">須加野 幸恵、鳥畑 好江</td><td>時間</td><td>30</td><td>履修年次</td><td>1 年前期</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="6">看護の概念と役割を理解し、看護の本質について考え、看護の基本となる知識・技術・態度を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>目 標</td><td colspan="6">1.看護の概念と主要な看護理論について理解できる。
2.看護の対象について理解できる。
3.看護の機能と役割について理解できる。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">講義内容
(概要)</td><td>1.看護の本質</td><td colspan="3">1)看護の定義
2)主要な看護理論
3)職業としての看護</td><td colspan="2" rowspan="4">＊グループワーク(随時)</td></tr>
<tr><td>2.看護の対象としての人間</td><td colspan="3">1)全体としての人間
2)成長発達する存在
3)ニーズを持つ存在
4)生活者としての存在
5)適応する存在
6)社会・文化的存在</td></tr>
<tr><td>3.人間と健康</td><td colspan="3">1)健康のとらえ方
2)健康への影響要因
3)生活習慣とセルフケア
4)健康と QOL
5)国民の健康の全体像
6)国民のライフサイクル</td></tr>
<tr><td>4.看護の機能と役割</td><td colspan="3">1)職業人としての看護
2)資格・養成制度・就業状況
3)継続教育とｷｬﾘｱ開発
4)看護サービスの提供
5)看護をめぐる制度と政策

＊事例から自己の考えをまとめるレポート
＊課題の探求</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="6">・筆記試験　　・課題</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="6">・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［1］看護学概論：医学書院 e テキスト</td></tr>
<tr><td>備 考</td><td colspan="6">実務経験有：医療機関にて看護業務経験有</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">看護倫理</td><td>単位数</td><td>1</td><td>授業形態</td><td>講義　＊グループワーク</td></tr>
<tr><td>講師名</td><td colspan="2">須加野 幸恵</td><td>時間</td><td>30</td><td>履修年次</td><td>1 年次前期～後期</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="6">専門職業人としての判断や行動を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>目 標</td><td colspan="6">1.看護倫理について理解できる。
2.看護倫理の事例検討ができる。
3.看護研究の基礎が理解できる。
4.研究における倫理の重要性と研究方法を理解する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">講義内容
(概要)</td><td>1.看護における倫理</td><td colspan="3">1)看護倫理の必要性
・看護職の倫理綱領
2)職業倫理･看護倫理
3)患者の権利と擁護
4)医療における倫理
5)倫理原則
・倫理教育
6)「実習における倫理的態度」</td><td colspan="2">＊グループワーク</td></tr>
<tr><td>2.看護における研究</td><td colspan="3">1)看護研究とは　《課題》
(1)看護研究の意義と目的
(2)研究における倫理の考え方
2)文献検索
(1)文献検索の意義
(2)文献検索の活用
3)研究論文構成
(1)論文の種類
(2)論文作成の構成
4)研究方法
(1)研究方法の分類
(2)量的･質的研究
5)プレゼンテーション
(1)プレゼンテーションの意義
(2)プレゼンテーションの留意事項

「実習を振り返り看護の意味づけをしよう」</td><td colspan="2">＊研究論文要約
＊研究論文クリティーク

＊ケーススタディシート</td></tr>
<tr><td>3.プレゼンテーションの実際</td><td colspan="3">【学術集会参加】
1)口頭発表の実際
2)ポスター発表の実際
3)発表を通しての学び
意見交換およびまとめ</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="6">・筆記試験</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="6">・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［1］看護学概論：医学書院 e テキスト
・系統看護学講座 別巻 看護倫理：医学書院 e テキスト
・系統看護学講座 別巻 看護研究：医学書院 e テキスト</td></tr>
<tr><td>備 考</td><td colspan="6">実務経験有：医療機関にて看護業務経験有</td></tr>
</table>

科目名	看護場面に共通する技術	単位数	1	授業形態	講義、演習＊グループワーク ★OSCE
講師名	天貝 恵子	時間	30	履修年次	1 年次前期～後期
ねらい	看護実践の基礎となる技術を身につける。				
目 標	1.看護技術の概念を理解できる。 2.看護に共通する技術(安全･安楽･自立)について理解することができる。				

講義内容(概要)			
	1.看護技術の概念	1)看護技術とは 2)看護技術の特徴 3)看護技術の基本原則	
	2.コミュニケーション	1)コミュニケーションの意義 2)コミュニケーションの基礎知識 ・目的 ・要素 ・自己理解、他者理解 3)コミュニケーションの実際 ・人間関係を保つコミュニケーション	コミュニケーションの実際
	3.看護技術と看護過程	1)情報収集と観察、記録･報告に関する看護の意義 2)情報収集と観察、記録･報告に関する基礎知識	
	4.安全･安楽	1)安全･安楽に関する看護の意義 2)安全･安楽に関する基礎知識 ・安全･安楽を阻害する因子 3)安全･安楽の援助 ・安全に対する対策 ・安楽に対する対策	安全確保 ＊グループワーク 温罨法･冷罨法
	5.創傷管理	1)創傷管理の基礎知識 ・創傷治癒形態 2)創傷処置 ・包帯法援助の基礎知識 3)褥瘡予防 ・意義 ・基礎知識	包帯法(巻軸帯･三角巾)
	6.対象者に向けた学習支援	1)学習支援に関する看護の意義　《課題》 2)学習支援に関する基礎知識 3)学習支援の実際	＊グループワーク 患者指導
	7.OSCE	1)オリエンテーション 2)OSCE 3)振り返り	★OSCE

評価方法	･筆記試験(60%)　･OSCE(40%)
使用テキスト	･系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ：医学書院ｅテキスト ･系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ：医学書院ｅテキスト
備 考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有

科目名	看護過程	単位数	1	授業形態	講義、演習
講師名	中山 桂子	時間	30	履修年次	1年次前期～
ねらい	看護実践の基礎となる技術を身につける。				
目 標	1.対象理解の方法を理解する。 2.看護過程の展開ができる。				

講義内容 (概要)	1.看護の基盤となる思考過程	1)根拠に基づいた看護 2)クリティカルシンキング 3)問題解決過程 4)リフレクション
	2.看護過程の各段階	1)看護過程とは 2)アセスメント ・情報の収集と整理 ・分析・解釈 3)看護問題の明確化と優先順位決定 4)看護目標の設定と計画 5)実施 6)評価
	3.看護記録と実習記録	1)看護記録の法的規定 2)看護記録の目的と意義 3)看護記録の構成要素 4)看護記録の記載基準 5)情報の取り扱いと留意点
	4.事例における看護過程の展開	1)事例紹介 《課題》 2)アセスメント 3)看護問題の明確化と優先順位決定 4)看護目標の設定と計画 5)実施 6)評価 ＊事例に必要な学習を各自ですすめる その後 ・シンク・ペア・シェア ・シンク・グループ・シェア

評価方法	・筆記試験(70%) ・課題(30%)
使用テキスト	・高木永子：看護過程に沿った対症看護、学研、2021 ・阿部俊子、山本則子：エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図、2020 ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ：医学書院ｅテキスト
備 考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有

科目名	フィジカルアセスメント	単位数	1	授業形態	講義、演習　✿技術テスト
講師名	永山 美子	時間	30	履修年次	1 年次前期～後期
ねらい	看護実践の基礎となる技術を身につける。				
目 標	フィジカルアセスメントの実際が理解できる。				

講義内容(概要)			
	1.ヘルスアセスメント	1)ヘルスアセスメントが持つ意味 2)看護におけるフィジカルアセスメントの意義	
	2.フィジカルアセスメントに必要な技術	1)医療面接 ・問診(インタビュー)の技術 2)フィジカルイグザミネーション ・視診、触診、聴診、打診の技術	フィジカルイグザミネーション
	3.バイタルサインの観察とアセスメント	1)体温、脈拍、呼吸、血圧、意識の測定 2)バイタルサインの観察とアセスメント 3)バイタルサイン測定の実際　《課題》	✿バイタルサイン測定
	4.身体計測	1)身長、体重、腹囲、皮下脂肪、握力の計測 2)計測とアセスメント	身長、体重、腹囲、皮下脂肪の計測
	5.系統別のフィジカルアセスメント	1)呼吸器系のフィジカルイグザミネーション　《課題》 ・呼吸器系のアセスメント 2)循環器系のフィジカルイグザミネーション　《課題》 ・循環器系のアセスメント 3)腹部のフィジカルイグザミネーション　《課題》 ・腹部のアセスメント 4)脳神経系のフィジカルイグザミネーション　《課題》 ・脳神経系のアセスメント 5)運動器系のフィジカルアセスメント　《課題》 ・運動器系のアセスメント	呼吸器系、循環器系、腹部、脳神経系、運動器系のフィジカルイグザミネーション
	6.フィジカルアセスメントの実際	1)事例を通したフィジカルアセスメントの実際　《課題》	✿バイタルサイン測定とフィジカルイグザミネーション

評価方法	・筆記試験(80%)　・課題(20%)
使用テキスト	・系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ：医学書院 e テキスト
備 考	・参考図書　看護が見える vol.3、フィジカルアセスメント、メディックメディア 2019 実務経験有：医療機関にて看護業務経験有

科目名	環境調整技術	単位数	1	授業形態	講義、演習　✿技術テスト
講師名	東野 真弓	時間	30	履修年次	1 年次前期
ねらい	看護実践の基礎となる技術を身につける。				
目 標	1.環境調整の基本原則を理解できる。 2.基本的日常生活援助技術ができる。				

講義内容(概要)			
	1.環境の基礎知識	1)環境とは 2)人間の生活に影響を与える環境因子 3)環境のアセスメント	
	2.療養環境を整える援助	1)療養環境とは 2)安全な療養環境 ・環境調整 3)病床環境 ・ベッドメイキング　《課題》 ・臥床患者のリネン交換　《課題》	環境整備 ベッドメイキング ✿臥床患者のリネン交換
	3.感染防止の基礎知識	1)感染予防における看護師の役割 ・看護師の責務と役割 2)感染予防の基礎知識 ・感染防止対策の基本 ・感染経路 ・感染経路の遮断 3)感染経路別予防策 ・手洗い法 ・標準予防策　《課題》 ・個人防御用具の使用方法 4)感染物の基礎知識 ・感染性廃棄物の分別･表示 ・医療器具の取り扱い	 手洗い法 ✿標準予防策 感染性廃棄物の取り扱い
	4.無菌動作の基礎知識	1)消毒と滅菌の基礎知識 2)保管方法 3)滅菌物の取扱いの基本　《課題》	 無菌操作

評価方法	・筆記試験(90%)　・課題(10%)
使用テキスト	・系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ：医学書院 e テキスト ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ：医学書院 e テキスト
備 考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">活動･休息援助技術</td><td>単位数</td><td>1</td><td>授業形態</td><td>講義、演習　✿技術テスト</td></tr>
<tr><td>講師名</td><td colspan="2">朝秀 愛</td><td>時間</td><td>30</td><td>履修年次</td><td>1 年次前期</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="6">看護実践の基礎となる技術を身につける。</td></tr>
<tr><td>目 標</td><td colspan="6">1.活動･休息の基本原則を理解できる。
2.基本的日常生活援助技術ができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">講義内容
(概要)</td><td>1.活動の基礎知識</td><td colspan="2">1)健康にとっての運動の意義
2)姿勢、基本肢位と良肢位
3)体位の種類、特徴と生理学的影響　《課題》
4)ボディメカニクスの原理と活用
5)活動と運動のアセスメント
(1)体位･動作の観察
(2)関節可動域の評価
(3)ADL 評価</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>2.活動･運動を促すための援助</td><td colspan="2">1)活動を促す援助
(1)体位変換
(2)安楽な体位の保持　《課題》
(3)歩行
(4)移乗と移送　《課題》

2)運動を促す援助
(1)自動･他動運動
(2)レクリエーション</td><td colspan="2">✿ボディメカニクスを活用した臥床患者の体位変換･安楽な体位の工夫
歩行介助、杖、歩行器
担架、車いす、ストレッチャー移送
✿移乗動作</td></tr>
<tr><td>3.睡眠の基礎知識</td><td colspan="2">1)休息･睡眠の意義
2)睡眠の種類、メカニズム
3)睡眠障害の要因とアセスメント</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>4.睡眠･休息を整えるための援助</td><td colspan="2">1)睡眠・休息を促す援助
(1)生活環境の調整
(2)生活リズムの調整
(3)心身の準備
2)精神的安寧のための援助
(1)リラクゼーション
(2)タッチケア
(3)マッサージ</td><td colspan="2">✻グループワーク
ハンドマッサージ</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="6">･筆記試験(90%)　･課題(10%)</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="6">･系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ：医学書院 e テキスト</td></tr>
<tr><td>備 考</td><td colspan="6">･参考図書　看護が見える vol.1　基礎看護技術　メディックメディア 2018
整形外科看護アドバンス　インターメディカ　2021
実務経験有：医療機関にて看護業務経験有</td></tr>
</table>

科目名	食事･排泄援助技術	単位数	1	授業形態	講義、演習 ✿技術テスト
講師名	井上 千寿子	時間	30	履修年次	1 年次前期～後期
ねらい	看護実践の基礎となる技術を身につける。				
目 標	1.食事･排泄の基本原則を理解できる。 2.基本的日常生活援助技術ができる。				

講義内容 (概要)	1.食事の基礎知識	1)食事、栄養の意義 2)健康な食生活、食事摂取基準、治療食･療養食 3)摂食、嚥下、消化吸収のメカニズム 4)食事･栄養摂取に影響する因子 5)食事･栄養状態のアセスメント	
	2.食事の援助技術	1)食事援助の実際 《課題》 (1)実施前の評価、説明、環境調整、準備、 姿勢の保持(誤嚥防止)、食事用具の工夫、 自助具の紹介、介助の方法、口腔ケア 2)非経口的栄養摂取の援助 (1)経管栄養法 (2)中心静脈栄養法	食事介助、食事指導 臥床患者の食事介助及び口腔ケア(嚥下障害患者を除く)
	3.排泄の基礎知識	1)排泄の意義 2)排泄のメカニズム 3)排泄に影響を与える因子 4)排泄のアセスメント	
	4.排泄の援助技術	1)排泄援助の実際 (1)自然な排便排尿を促す援助 (2)失禁のケア 2)トイレ歩行･ポータブルトイレでの排泄の援助《課題》 3)床上排泄の援助 (1)おむつ交換 《課題》 (2)便器･尿器を使用した床上排泄の援助 《課題》 4)排泄に関する処置 (1)浣腸 (2)摘便 (3)導尿 (4)膀胱留置カテーテル	✿おむつ交換 便器･尿器を使用した床上排泄の援助

評価方法	･筆記試験(80%) ･課題(20%)
使用テキスト	･系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ：医学書院 e テキスト
備 考	･参考図書 看護が見える vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 2018 実務経験有：医療機関にて看護業務経験有

科目名	清潔援助技術	単位数	1	授業形態	講義、演習　✿技術テスト
講師名	渡辺 真奈美	時間	30	履修年次	1 年次前期～後期
ねらい	看護実践の基礎となる技術を身につける。				
目 標	1.清潔の基本原則を理解できる。 2.日常生活援助ができる。				

講義内容 (概要)			
	1.衣生活	1)衣服を用いることの意義 2)衣服に関する基礎知識 3)寝衣の種類と特徴、選択方法 4)療養生活と衣生活のアセスメント 5)寝衣交換の援助の実際　《課題》	✿臥床患者の寝衣交換
	2.清潔援助の基礎知識	1)清潔の意義 2)清潔の効果 3)清潔行動に影響する要因のアセスメント 4)対象者に応じた援助の決定と留意点	
	3.身体各部の清潔援助	1)基礎知識と援助の実際 (1)口腔の清潔 (2)入浴・シャワー浴 (3)全身清拭　《課題》 (4)陰部洗浄　《課題》 (5)頭皮頭髪の清潔 ・洗髪　《課題》 ・ドライシャンプーと整髪 (6)足浴・手浴　《課題》 (7)整容 ・洗面 ・眼・耳・鼻の清潔 ・ひげそり ・爪切り	✿臥床患者の全身清拭 ✿陰部洗浄 臥床患者の洗髪 (ケリーパッド使用) 足浴

評価方法	・筆記試験(90%)　・課題(10%)
使用テキスト	・系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ：医学書院 e テキスト
備 考	・参考図書　看護が見える vol.1　基礎看護技術　メディックメディア 2018 実務経験有：医療機関にて看護業務経験有

目名	診療の補助技術	単位数	1	授業形態	講義、演習　＊グループワーク ✿技術テスト
講師名	馬場 智子	時間	30	履修年次	2 年次前期
ねらい	看護実践の基礎となる技術を身につける。				
目 標	1.診療の補助動作ができる。				

講義内容 (概要)			
	1.呼吸・循環を整える援助技術	1)酸素吸入療法　《課題》 ・適応と器具 ・酸素ボンベの取り扱い	
	2.症状・生体機能管理技術	1)診療・検査時の看護師の役割　《課題》 2)検体検査の基礎知識と援助の実際　《課題》 (1)尿、便、喀痰検査 (2)血液(静脈、動脈血検査)	一般尿定量検査(試験紙) ✿静脈血採血
	3.診察・検査・処置の介助技術	1)生体検査の基礎知識と検査時の看護 (1)放射線撮影(単純・)：CT　MRI (2)内視鏡検査 (3)超音波検査 (4)穿刺法：胸腔・腹腔・腰椎(ルンバール)・骨髄	
	4.与薬の技術	1)与薬の基礎知識 2)薬剤の管理・取り扱い 3)与薬経路と体内動態 4)与薬における看護の役割 5)各種与薬の援助法　《課題》 (1)目的、方法、留意点 ①経口、口腔内、直腸内与薬、 吸入経皮的与薬(塗布・貼付)、点耳、点眼、点鼻 (2)注射法(皮下、皮内、筋肉内、静脈内)　《課題》 ①注射の基礎知識 ②注射の準備 ③注射法の実際 注射部位、刺入角度、留意事項 (3)輸液管理 点滴静脈内注射の準備～実施片付け 静脈路確保、輸液速度の調整、中心静脈カテーテル	与薬の実際： ・経口、経皮、直腸内、 点眼 ✿筋肉内注射 点滴静脈内注射の実際 側管注、三方活栓の取り扱い

評価方法	・筆記試験(90%)　・課題(10%)
使用テキスト	・系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ：医学書院 e テキスト ・病態治療論[１]病態・治療総論 、南江堂、2019 ・看護が見える vol.2 臨床看護技術　メディックメディア
備 考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有

科目名	臨床看護総論	単位数	1	授業形態	講義、演習 ＊グループワーク
講師名	丹野 朋子	時間	30	履修年次	2 年次前期
ねらい	健康障害を持つ対象を理解し、健康状態に応じた看護の考え方を学ぶ。				
目 標	1.経過に基づく対象の看護を理解できる。。 2.主要な症状を示す対象の看護を理解できる。 3.主要な治療･処置の看護を理解できる。				

講義内容(概要)			
	1.臨床看護とは		
	2.経過別看護の特性	1)急性期とは (急性期の概念、急性期の特徴、危機理論、看護) 2)回復期とは(回復期の概念、回復期の特徴、看護) 3)慢性期とは (慢性期の概念、慢性期の特徴、看護、病みの軌跡) 4)終末期とは (終末期の概念、終末期の特徴、看護、グリーフケア、死亡時のケア) 《課題》	＊グループワーク
	3.症状別看護	1)意識、感覚障害のある患者の看護	
		2)呼吸障害のある患者の看護 3)循環障害を持つ患者の看護 4)栄養･排泄障害のある患者の看護 5)痛みのある患者の看護	酸素吸入療法を受けている患者の観察 酸素器具の取り扱い 酸素ボンベの操作
	4.治療、処置別看護	1)食事療法を受ける対象者の看護 2)安静療法を受ける対象者の看護 3)輸液療法を受ける対象者の看護(輸血含む) 4)薬物療法を受ける対象者の看護（化学療法含む） 5)手術療法を受ける対象者の看護	
		6)放射線療法を受ける対象者の看護 《課題》 7)人工臓器装着、臓器移植を必要とする対象者の看護 8)救急治療、集中治療を受ける対象者の看護	放射線被爆からの防護

評価方法	･筆記試験(90%) ･課題(10%)
使用テキスト	･系統看護学講座 基礎看護学［4］臨床看護総論：医学書院 e テキスト
備 考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有

科目名	地域･在宅看護論Ⅰ	単位数	1	授業形態	講義、演習 ＊グループワーク
講師名	飯塚 祐子、土浦市社会福祉協議会 他	時間	15	履修年次	1年次前期
ねらい	生活の場で療養する人とその家族に対して、看護を展開するための基礎的能力を身につける。				
目 標	1.地域で生活する人々とその家族を理解できる。				

講義内容(概要)			
	1.地域のなかでの暮らしと健康、看護	1)人々の暮らしの理解 (1)暮らしとは (2)暮らしと健康の関係：健康問題と影響 (3)暮らしのなかの健康：多様性、看護の視点 2)地域･在宅看護の役割と社会背景	
	2.地域･在宅看護の対象	1)地域･在宅看護の対象者 (1)地域による多様性 (2)ライフステージによる多様性 2)家族の理解 3)地域の特性と理解	
	3.地域調査	1)地域の特性と課題 《課題》 (1)環境(自然、社会環境) (2)人口構造、健康状態 (3)医療、保健、福祉施設 (4)訪問看護ステーション (5)文化的環境、風土 (6)住民の意見等 2)調査結果、気づき、意見交換	調査学習 ＊グループワーク
	4.暮らしと地域のかかわり	1)土浦市に暮らす人々の現状と地域の特徴 (1)誰もが安心して暮らせるための地域の活動調査 社会福祉協議会の基本理念、目標、組織体制 事業･活動の実際	土浦市社会福祉協議会職員による講義
	5.視･聴覚障害者の生活状況と支援の実際	1)視･聴覚障害者の生活状況と支援の実際について 2)学習共有 《課題》 「障害があってもその人らしく地域で暮らすことを支援する活動について」	視･聴覚障害者による講義 ＊グループワーク
	6.暮らしを支える看護活動と看護の場	1)地域看護活動の機能と役割 2)地域看護の実践される場と活動分野	

評価方法	･筆記試験(80%) ･課題(20%)
使用テキスト	･系統看護学講座 専門分野 地域･在宅看護論［1］地域･在宅看護の基盤：医学書院ｅテキスト
備 考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">地域･在宅看護論Ⅱ</td><td>単位数</td><td>2</td><td>授業形態</td><td>講義､演習</td></tr>
<tr><td>講師名</td><td colspan="2">飯塚 祐子</td><td>時間</td><td>30</td><td>履修年次</td><td>2 年次前期</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="6">生活の場で療養する人とその家族に対して､看護を展開するための基礎を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>目 標</td><td colspan="6">1.生活の場で療養する人とその家族を理解できる。
2.地域･在宅で生活する人を支えるために多職種と連携し継続看護の役割を理解できる。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">講義内容
(概要)</td><td>1.地域･在宅看護の目的と特徴</td><td colspan="4">1)社会的背景
(1)人口構成の変化
(2)国民の価値観
(3)社会保障費
(4)生活の場
2)地域･在宅看護における看護師の機能と役割
(1)地域･在宅看護における多職種連携
(2)病状の予測･予防､自立支援
(3)家族を単位としたケア
QOL の理解､セルフケア､社会参加への援助､
ヘルスアセスメント､病状経過の予測
3)在宅看護における倫理
(1)療養者･家族の意思決定支援
(2)個人情報の保護､管理
(3)サービス提供者の権利保護</td><td rowspan="5">居宅介護サービスの活用</td></tr>
<tr><td>2.地域･在宅看護の対象とその生活</td><td colspan="4">1)対象者の特徴
2)在宅療養の成立要件
3)家族への看護(レスパイトケア)</td></tr>
<tr><td>3.地域･在宅療養の支援､地域の保健医療福祉の連携</td><td colspan="4">1)地域包括ケアシステム
2)外来看護
3)療養の場の移行(入退院支援)
4)医療機関･施設連携</td></tr>
<tr><td>4.地域･在宅療養にかかわる法令･制度とその活用</td><td colspan="4">1)地域･在宅かかわる法令･制度
2)介護保険制度
3)訪問看護の制度
4)訪問看護のサービス
5)地域における多職種連携
6)事例展開 《課題》</td></tr>
<tr><td>5.地域･在宅看護の展開</td><td colspan="4">1)地域･在宅看護過程展開のポイント
2)看護過程の展開方法
3)療養上のリスクマネジメント
4)権利保障</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="6">･筆記試験(90%) ･課題(10%)</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="6">･系統看護学講座 専門分野 地域･在宅看護論［1］地域･在宅看護の実践：医学書院 e テキスト</td></tr>
<tr><td>備 考</td><td colspan="6">実務経験有：医療機関にて看護業務経験有</td></tr>
</table>

科目名	地域･在宅看護論Ⅲ	単位数	1	授業形態	講義、演習
講師名	東野 真弓、高野 悠起子、柳橋 貴子、 井坂 尚美	時間	30	履修年次	2 年次後期
ねらい	生活の場で療養する人とその家族に対して、看護を展開するための基礎を学ぶ。				
目 標	地域･在宅における看護活動、看護の実際を理解できる。				

講義内容(概要)			
	1.地域･在宅看護活動の基本概念	1)在宅看護の目的と特徴 2)訪問看護の変遷、課題	
	2.訪問看護の展開	1)訪問看護の目的と役割 2)制度、規定による訪問看護活動 医療保険･介護保険、障害者総合支援法、高齢者医療等 3)保健医療福祉機関による訪問看護活動 4)医療機関による訪問看護 5)訪問看護ステーションによる訪問看護 開設基準、サービス開始までの流れ、展開、 サービスの質の保障、サービスの管理･経営 6)訪問看護の実際 事例展開 《課題》 7)在宅看護における倫理的態度	事例展開 訪問看護の基本的マナー
	3.療養の場の移行支援	1)患者･家族の意思決定支援と調整 2)退院支援と調整 3)入退院時における医療機関との連携 4)入退所における施設との連携	
	4.地域における多職種連携	1)在宅における連携の特徴 2)医師との連携 3)地域の社会資源との連携(地域連携ﾊﾟｽ) 地域包括ケア 4)ネットワークづくり ･外来看護、医療機関 ･施設連携	
	5.精神障害の療養者のケア	1)精神障害療養者の特徴と看護 2)統合失調症の療養者の事例展開 情報収集 アセスメント 看護計画 実施 3)看護の実際	事例展開
	6.医療管理を要する療養者のケア	1)在宅酸素療法(HOT) 2)非侵襲的陽圧換気療法(NPPV)	在宅酸素療法(HOT)

評価方法	･筆記試験(90%) ･課題(10%)
使用テキスト	･系統看護学講座 専門分野 地域･在宅看護論［2］地域･在宅看護の実践：医学書院 e テキスト
備 考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有

科目名	地域･在宅看護論Ⅳ	単位数	2	授業形態	講義、演習
講師名	玉主 祥子、西連寺 信枝	時間	30	履修年次	2 年次後期
ねらい	生活の場で療養する人とその家族に対して、看護を展開するための基礎的能力を身につける。				
目 標	1.地域･在宅における疾患別･経過別看護の役割について理解できる。 2.地域･在宅における看護技術が理解できる。				

講義内容(概要)			
	1.在宅で看護するにあたって心構え	1)在宅看護の活動を支えるコミュニケーション 2)在宅看護を展開していくうえで検討すべきポイント	
	2.在宅看護介入時期別の特徴:看護目標･看護計画	1)在宅療養準備期(退院前) 2)在宅療養移行期 3)在宅療養安定期 4)急性増悪期 5)終末期(臨死期)	
	3.在宅看護の実際	1)身体に障害(脊髄髄傷)がある人へのケア ・日常生活動作のアセスメント 2)難病(ALS)のある人へのケア ・疾患の経過を踏まえたアセスメント ・意思決定支援　　・意思伝達方法 3)終末期を迎える人へのケア ・症状コントロール　・家族へのグリーフケア ・緩和ケアの実際、看取りの看護 4)医療的ケア児へのケア ・成長発達課題　　・家族･兄弟の支援･ケア ・合併症の予防と対策 5)認知症のある人へのケア ・症状に合わせた対応　・問題行動に対処する家族の支援 (成年後見人制度･権利擁護･虐待)	
	4.安全と危機管理	1)日常生活における安全管理(感染対策を含む) 2)災害時における健康危機管理	
	5.在宅看護技術･医療管理を必要とする人の看護(看護技術／医療処置)	1)食事･栄養(経管栄養、経腸栄養、胃瘻、中心静脈栄養法) 2)排泄(排便管理、ストーマ管理) 3)清潔 4)移動(日常生活動 ADL/IADL のアセスメント、援助方法) 5)与薬 6)外来通院中の在宅療養者に対する援助 (化学療法、放射線療法) 7)在宅における感染対策 ・スタンダードプリコーションと感染経路別予防対策 ・手指衛生方法　・タイミング ・特定の感染症への対応 ・在宅医療廃棄物の処理方法	療養環境 浣腸、摘便 移動

評価方法	・筆記試験
使用テキスト	・系統看護学講座 専門分野 地域･在宅看護論［2］地域･在宅看護の実践：医学書院 e テキスト
備 考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">成人看護学Ⅰ(概論･保健)</td><td>単位数</td><td>1</td><td>授業形態</td><td>講義､演習</td></tr>
<tr><td>講師名</td><td colspan="2">藤岡 裕子</td><td>時間</td><td>30</td><td>履修年次</td><td>1年次後期</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="6">成人期の特徴と健康の保持･増進､健康上の課題を理解し､援助できる基礎を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>目 標</td><td colspan="6">1.ライフサイクルと成人看護の役割を理解できる。
2.成人保健の動向と医療･福祉対策を理解できる。</td></tr>
<tr><td rowspan="7">講義内容
(概要)</td><td>1.成人の生涯発達の特徴</td><td colspan="4">1)ライフサイクルからみた成人(成人期)
2)成人期のライフサイクルとライフステージ　《課題》
3)青年期･壮年期･向老期の身体の特徴　《課題》
4)青年期･壮年期･向老期の心理社会的な特徴</td><td rowspan="7">統計から考える生活習慣病

エンパワメントアプローチ</td></tr>
<tr><td>2.成人と生活</td><td colspan="4">1)家族形態と機能
2)社会状況の変化と成人の生活</td></tr>
<tr><td>3.成人保健の動向と対策</td><td colspan="4">1)健康に関する指標：
･平均余命 ･死因､死亡率･受療率等
･産業構造の変化
･生活環境衛生
2)成人を対象とした保健政策
3)成人を対象とした健康教育</td></tr>
<tr><td>4.成人看護に必要な理論</td><td colspan="4">1)病みの軌跡
2)エンパワーメント
3)セルフマネジメント
4)自己効力</td></tr>
<tr><td>5.生活習慣に関する健康問題</td><td colspan="4">1)生活習慣病の発症因子と予防
2)生活習慣病の発症状況
3)生活習慣病予防における看護の役割</td></tr>
<tr><td>6.職業に関する健康問題</td><td colspan="4">1)労働条件･環境と病気
2)職業性疾患の発生状況と予防
3)家事労働と保健
･女性の就労と子育て･主婦と育児不安
･育児ストレス･主婦と健康問題 ･高齢者介護</td></tr>
<tr><td>7.生活ストレスに関連する健康問題</td><td colspan="4">1)生活ストレスと健康問題
2)ストレス関連疾患の発生状況
3)ストレス対処方法</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="6">･筆記試験</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="6">･系統看護学講座 専門分野 成人看護学［1］成人看護学総論：医学書院 e テキスト
･国民衛生の動向､厚生労働統計協会</td></tr>
<tr><td>備 考</td><td colspan="6">実務経験有：医療機関にて看護業務経験有</td></tr>
</table>

科目名	成人看護学Ⅱ	単位数	1	授業形態	講義、演習
講師名	大槻 勝明、馬場 智子、宍戸 正子	時間	30	履修年次	2 年次前期
ねらい	成人期の特徴と健康の保持・増進、健康上の課題を理解し、援助できる基礎を学ぶ。				
目 標	1.生命の危機にある対象の看護を理解できる。				

講義内容(概要)			
	1.救急看護と救急処置	1)救急看護と集中ケア分野の考え方 2)救急とは 3)緊急度と重症度の違い 4)救急看護師の役割 (1)患者の重症度と緊急度の把握 (2)患者のトリアージ (3)家族の心理を理解し適切な看護 5)救急患者の特徴と看護 6)心肺蘇生法 (1)救急処置：出血、止血法、固定法外傷、けいれん、ショック、熱中症、食中毒 (2)心肺蘇生法：気道確保の方法、胸骨圧迫法、AED 7)致死的不整脈とは	緊急時の応援要請 心肺蘇生法、止血法、固定法 ＊救急隊含む
	2.生命の危機的状況のアセスメント	1)急性期のアセスメント (1)ストレス反応 (2)侵襲と生体反応	
	3.呼吸・循環障害の看護：観察のポイントとケア	1)呼吸・循環障害のアセスメント 2)呼吸状態(酸素化)の評価 3)酸素療法・人工呼吸療法 (1)人工呼吸器を必要とする患者の理解 (2)気管内挿管の準備(必要物品、患者の体位 他) ・気管内吸引について	
	4.心筋梗塞の看護	1)疾患の基礎的知識 (1)心筋梗塞の病態生理主な症状と病態(胸痛、関節痛) (2)緊急時のチェックポイント 2)主な検査と治療の看護 (1)心臓カテーテル検査の看護 (2)ペースメーカー装着時の援助 (3)心電図(12 誘導)装着のポイント 3)循環障害のアセスメント 4)看護目標と看護活動(1)胸痛・呼吸困難などの苦痛の軽減 (2)安静度に応じた日常生活への援助 (3)合併症の予防と早期発見 (4)薬物療法時の看護 (5)食事・排泄・身体活動の拡大	心電図装着(12 誘導)
	5.急性心不全患者の看護	1)疾患の基礎的知識 2)主な検査と治療の看護 ・肺うっ血に伴う呼吸困難の緩和 3)循環障害のアセスメント ・薬物療法時の看護(利尿薬、強心薬) 4)看護目標と看護活動	

評価方法	・筆記試験
使用テキスト	・系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学総論：医学書院 e テキスト ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学［3］循環器：医学書院 e テキスト
備 考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有

科目名	成人看護学Ⅲ(手術期の看護)	単位数	1	授業形態	講義、演習
講師名	関 深雪、鈴木 あや、鈴木 淳	時間	30	履修年次	2 年次前期～後期
ねらい	成人期の特徴と健康の保持・増進、健康上の課題を理解し、援助できる基礎を学ぶ。				
目 標	1.手術期にある対象の看護を理解できる。				

講義内容(概要)			
	1.周手術期の特徴	・周手術期看護とは　・手術療法とは	
	2.周手術期にある患者の看護	1)手術前患者の看護 (1)手術前の検査と治療に対する支援 ・術前検査とそのアセスメント (2)術後合併症のリスクアセスメント ・呼吸器合併症、血栓塞栓症、術後イレウス、術後せん妄 (3)術前指導 (4)手術の準備:手術前日・手術当日 (5)術前訪問と不安のアセスメントと援助 2)手術中患者の看護(1)入室～麻酔導入時の看護 (2)手術体位とその影響 (3)手術方法による影響と援助 (4)麻酔方法による影響と援助 (5)術中の安全管理 (6)手術終了時(抜管から退室時の看護) (7)手術室看護師の役割 3)手術後患者の手術後合併症の予防と看護 (1)術後合併症の観察とアセスメント (2)術後の疼痛管理 (3)術後の創傷管理 ・創傷治癒過程と創部保護と被覆材 ・創傷治癒状況のアセスメントと処置 (4)術後のドレーン管理 ・目的とドレーンの種類と挿入部のアセスメントと処置 (5)感染への対処	創傷処置、創部の観察、保護、洗浄、処置(人工肛門を除く) ドレーン類の挿入部の管理、観察・処置(胸腔ドレーンを除く) 事例を用いての感染予防策
	3.手術療法を受ける患者の看護	1)日常生活の自立と早期回復を促進する援助 2)手術療法を受けた患者の看護の実際 (1)術後におきやすい合併症のアセスメントとその予防 (2)創傷の治癒修復までの援助 (3)術後の機能障害や生活制限への援助 (4)回復期の看護、社会復帰に向けての援助 ・乳がん　・胃がん　・肝臓がん(開腹手術)	
	4.集中治療を受ける患者の看護	1)手術後の集中治療を受ける患者の看護 (1)手術後の集中治療を受ける患者の特徴 (2)生命の危機的状況のアセスメント (3)患者のアセスメントと看護 ・疼痛管理：鎮痛、鎮静、せん妄 ・呼吸器合併症の予防と酸素化の促進 ・早期離床の促進 (4)侵襲の大きい術後の看護・開胸手術を受ける患者の看護 ・合併症予防	医療機器の管理 ネブライザーを用いた気道内加湿、体位ドレナージ 口腔内・鼻腔内吸引 気管内吸引 胸腔ドレーンの管理

評価方法	・筆記試験
使用テキスト	・系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学総論：医学書院 e テキスト
備 考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有

科目名	成人看護学Ⅳ(回復期の看護)	単位数	1	授業形態	講義、演習
講師名	藤岡 裕子、谷口 綾子、小澤 さおり	時間	30	履修年次	2 年次後期
ねらい	成人期の特徴と健康の保持・増進、健康上の課題を理解し、援助できる基礎を学ぶ。				
目 標	1.回復期にある対象の看護を理解できる。				

講義内容 (概要)	1.回復期の特徴	1)回復期とは (1)回復期にある患者の特徴 ・リハビリテーションの定義	
	2.回復期のアセスメント	1)セルフケア能力アセスメント ・国際生活機能分類(ICF) ・日常生活活動(ADL)評価 ・参加と参加制約の評価 ・クオリティオブライフ(QOL)の評価	
	3.障害への適応と社会復帰への看護	1)障害とは 2)障害受容への援助 (1)障害の認識過程 3)障害の改善と克服への援助 (1)機能障害と日常生活動作のアセスメント (2)代謝機能の獲得 (3)役割交代、職場調整 (4)社会資源の活用	
	4.障害を持つ患者の看護	1)大腸がん(ストーマ造設患者) (1)疾患の基礎的知識 (2)術前・術後の看護 (3)創傷の治癒過程 (4)社会復帰に向けての看護 (5)創傷のアセスメント ・ドレッシング、フイルム剤 2)脳梗塞(脳出血含む) (1)疾患の基礎的知識 (2)アセスメント (3)主な検査と治療の看護 ・CT、MRI、脳血管撮影(造影剤使用時の看護) ・薬物治療・外科的治療 ・地域連携クリニカルパス ・リハビリテーション	ストーマ管理

評価方法	・筆記試験
使用テキスト	・系統看護学講座 専門分野 成人看護学［5］消化器：医学書院ｅテキスト ・系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護：医学書院ｅテキスト
備 考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有

<table>
<tr><td>科目名</td><td>成人看護学Ⅴ(慢性期の看護)</td><td>単位数</td><td>1</td><td>授業形態</td><td>講義、演習</td></tr>
<tr><td>講師名</td><td>田所 美和、箕輪 明美</td><td>時間</td><td>30</td><td>履修年次</td><td>2 年次前期</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="5">成人期の特徴と健康の保持・増進、健康上の課題を理解し、援助できる基礎を学ぶ</td></tr>
<tr><td>目 標</td><td colspan="5">1.慢性期にある対象の看護を理解できる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">講義内容
(概要)</td><td>1.慢性疾患の特徴と看護</td><td colspan="2">1)慢性疾患の特徴
2)慢性疾患の経過</td></tr>
<tr><td>2.セルフケア・自己管理支援</td><td colspan="2">1)疾病認識と自己管理状況のアセスメント
2)セルフケア行動形成への影響要因
3)社会的支援の獲得
4)生活と自己管理の調整：自己モニタリング</td></tr>
<tr><td>3.慢性の経過をたどる看護</td><td>1)糖尿病患者の看護
(1)機能障害のアセスメント：
血糖調整機能障害の原因と程度
(2)診断基準、血糖コントロール目標値：
糖負荷試験(OGTT)
(3)合併症:3 大合併症、フットケア
(4)治療をうける患者の看護
食事療法、運動療法、インスリン補充療法、
糖尿病治療薬内服による治療、
血糖調整機能障害による症状の把握と理解
2)慢性腎不全患者の看護
(1)腎不全(急性・慢性)、慢性腎臓病(CKD)の理解
体液量・電解質・酸塩基平衡調節機能障害による原因と程度、症状
(2)腎不全の検査:腎機能検査、腎生検
(3)症状とその看護(浮腫を含む)
(4)治療をうける患者の看護
食事療法(腎不全期・維持透析期)、
透析療法(血液透析・腹膜透析)の管理、腎移植</td><td>糖尿病食事指導
簡易血糖測定
インスリン自己注射の指導法</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="5">・筆記試験</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="5">・系統看護学講座 成人看護学［1］成人看護学総論：医学書院 e テキスト
・系統看護学講座 専門分野 成人看護学［6］内分泌・代謝：医学書院 e テキスト
・系統看護学講座 専門分野 成人看護学［8］腎・泌尿器：医学書院 e テキスト</td></tr>
<tr><td>備 考</td><td colspan="5">実務経験有：医療機関にて看護業務経験有</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">成人看護学Ⅵ(終末期の看護)</td><td>単位数</td><td>1</td><td>授業形態</td><td>講義、演習</td></tr>
<tr><td>講師名</td><td colspan="2">松本 俊子、井坂 尚美、天貝 恵子
木川田 葉子</td><td>時間</td><td>30</td><td>履修年次</td><td>2 年次後期</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="6">成人期の特徴と健康の保持・増進、健康上の課題を理解し、援助できる基礎を身につける。</td></tr>
<tr><td>目 標</td><td colspan="6">1.終末期にある対象の看護を理解できる。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">講義内容
(概要)</td><td>1.終末期の理解と特徴</td><td colspan="3">1)終末期・緩和ケアの概念
2)対象及び家族の理解と特徴
・全人的苦痛とは
3)終末期にある患者への援助・全人的ケア
(1)症状マネジメントの考え方・看護師の役割
(2)全人的苦痛のアセスメントと苦痛のマネジメントの考え方
(3)QOL の維持・向上
4)終末期における精神的援助：
精神症状のある対象へのケア
5)チーム医療(チームアプローチ)
6)緩和ケアにおける倫理課題
生命倫理と看護倫理,意思決定支援
7)がん患者の社会参加への支援</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>2.がん治療に対する看護</td><td colspan="3">1)化学療法を受ける対象者への援助(白血病)
(1)身体症状のマネジメント：骨髄抑制
(2)治療時の看護：造血幹細胞移植、外来化学療法</td></tr>
<tr><td>3.終末期患者の看護</td><td colspan="3">1)呼吸症状のある終末期の対象者への援助(肺がん)
(1)身体症状のマネジメント：呼吸困難・倦怠感・食欲不振
(2)治療時の看護：放射線療法、
(3)精神的ケア</td></tr>
<tr><td>4.看取りのケア</td><td colspan="3">1)臨死期のケア
(1)身体的変化
(2)臨死期の援助
(3)家族のケア
家族の心理の理解と看護：予期的悲嘆、家族ケアの実際
2)死後のケア
3)グリーフケアと遺族ケア(ビリーブメントケア)</td><td>死後のケア</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="6">・筆記試験(90%)　・課題提出(10%)</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="6">・系統看護学講座 専門分野 成人看護学［1］成人看護学総論：医学書院 e テキスト
・系統看護学講座 別巻 緩和ケア：医学書院 e テキスト
・系統看護学講座 別巻 がん看護学：医学書院 e テキスト
・系統看護学講座 専門分野 成人看護学(2) 呼吸器：医学書院 e テキスト
・系統看護学講座 専門分野 成人看護学(10) 血液・造血器：医学書院 e テキスト</td></tr>
<tr><td>備 考</td><td colspan="6">実務経験有：医療機関にて看護業務経験有</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">老年看護学Ⅰ(概論･保健)</td><td>単位数</td><td>2</td><td>授業形態</td><td>講義､演習</td></tr>
<tr><td>講師名</td><td colspan="2">落合　一乃</td><td>時間</td><td>30</td><td>履修年次</td><td>2 年次前期</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="6">老年期の特徴と健康生活維持･増進のための課題を理解し､援助できる基礎を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>目 標</td><td colspan="6">1.ライフステージと老年看護の役割を理解できる。
2.老年保健の動向と医療･福祉対策を理解できる。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">講義内容
(概要)</td><td>1.高齢者の理解</td><td colspan="2">1)老年期と発達･変化
(1)ライフサイクルからみた高齢者　《課題》
(2)加齢と老化
(3)発達課題
2)高齢者の生活の質の保障
3)加齢への適応
4)高齢者のいる家族の変化</td><td colspan="2" rowspan="4">ライフヒストリー･インタビュー

高齢者擬似体験</td></tr>
<tr><td>2.高齢者の生活</td><td colspan="2">1)高齢者の機能と評価
2)高齢者の生活に関連する保健医療福祉制度
3)その人らしい生活の継続</td></tr>
<tr><td>3.高齢者の健康</td><td colspan="2">1)高齢者の健康と疾病
(1)受療状況
(2)介護予防
2)加齢に伴う身体機能の変化　《課題》
3)加齢に伴う認知機能の変化
4)加齢に伴う心理･社会的変化</td></tr>
<tr><td>4.老年看護の基本</td><td colspan="2">1)老年看護の変遷
(1)高齢者に関する保健医療福祉
(2)概念の活用
2)老年看護の倫理　《課題》
(1)高齢者差別防止
(2)高齢者虐待防止
(3)安全確保と身体拘束
(4)高齢者の権利擁護(アドボガシー)
(5)高齢者の意思決定への支援
(6)終末期における生き方や死の迎え方の意向
3)老年看護の特徴
(1)人生の統合に向けての支援
(2)多様な生活の場における看護
・チームアプローチ(多職種連携)</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="6">･筆記試験(70%)　･課題(30%)</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="6">･系統看護学講座 専門分野 老年看護学：医学書院ｅテキスト</td></tr>
<tr><td>備 考</td><td colspan="6">実務経験有：医療機関にて看護業務経験有</td></tr>
</table>

科目名	老年看護学Ⅱ(老年看護の基本技術)	単位数	1	授業形態	講義、演習
講師名	長島　芳美	時間	30	履修年次	2 年次前期～後期
ねらい	老年期の特徴と健康生活維持・増進のための課題を理解し援助できる基礎を学ぶ。				
目 標	1.高齢者の加齢変化に応じた健康生活維持の看護を理解できる。				

講義内容 (概要)	1.老年看護におけるコミュニケーションの基本技術	1)コミュニケーション (1)高齢者とのコミュニケーションとかかわり方の原則 (2)コミュニケーション能力のアセスメント (3)高齢者の状態 ・状況に応じたコミュニケーションの方法 ・老人性難聴、視覚障害	
	2.日常生活援助	1)活動 (1)基本動作と環境のアセスメント 活動性の変化と生活への影響 歩行・移動動作・姿勢保持のための援助 (2)転倒のアセスメントと看護　《課題》 (3)廃用症候群のアセスメントと看護(サルコペニア)	転倒予防
		2)食事・食生活 (1)高齢者における食生活の意義 (2)高齢者に特徴的な変調 ・加齢に伴う摂食嚥下機能の変化 ・老年期に多い疾患による摂食嚥下障害 ・栄養状態の変調　・脱水 (3)食生活のアセスメント ・食事環境　・摂食嚥下能力　・栄養状態 (4)食生活の支援 ・食事前・中・後のケア(口腔ケア、義歯の取り扱い) ・誤嚥予防の看護　《課題》 ・多職種協働による支援 (摂食嚥下チーム、栄養サポートチーム) (5)非経口的栄養摂取の援助　《課題》	義歯の取り扱い とろみ水 経鼻胃チューブ挿入、経管栄養(経腸栄養)、胃ろう
		3)排泄 (1)高齢者の排泄ケアの基本 (2)排尿障害のアセスメントと看護　《課題》 (3)排便障害のアセスメントと看護　《課題》	失禁患者の粘膜保護と褥瘡予防 摘便、浣腸
		4)清潔　(1)清潔の意義 (2)高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題 (3)清潔のアセスメント (4)清潔の援助	膀胱留置カテーテルの管理、導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入　《課題》
		5)生活リズム　(1)高齢者と生活リズム (2)高齢者に特徴的な変調(睡眠障害) (3)生活リズムのアセスメント (4)生活リズムを整える看護	

評価方法	・筆記試験(90%)　・課題(10%)
使用テキスト	・系統看護学講座 専門分野 老年看護学：医学書院 e テキスト
備 考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">老年看護学Ⅲ(治療を受ける高齢者の看護)</td><td>単位数</td><td>1</td><td>授業形態</td><td>講義、演習</td></tr>
<tr><td>講師名</td><td colspan="2">長島 芳美、小竹 裕子、中山 和代、
町田 浩志、岡田 恒夫、橋本 貴幸、比企 澄恵</td><td>時間</td><td>30</td><td>履修年次</td><td>2 年次前期～後期</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="6">老年期の特徴と健康生活維持・増進のための課題を理解し援助できる基礎を学ぶ</td></tr>
<tr><td>目 標</td><td colspan="6">1.健康課題を持つ高齢者の看護が理解できる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">講義内容
(概要)</td><td>1.治療をうける高齢者の看護</td><td colspan="2">1)加齢による疾患の特徴と要因
2)症状と生活への影響のアセスメント
3)予防、治療と援助
・骨折(脊椎圧迫骨折)　・大腿骨近位部骨折
・パーキンソン病　　・老人性白内障
・前立腺肥大症　　・尿路感染症</td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>2.認知機能障害のある高齢者の看護</td><td colspan="2">1)加齢による疾患の特徴と要因
2)症状と生活への影響のアセスメント
・うつ　・せん妄
3)認知症
(1)加齢による病態と要因
(2)環境と行動・心理症状
(3)認知機能の評価
(4)予防的治療、療法的アプローチ
(5)コミュニケーション方法、療養環境の調整
(6)急性期一般病床での援助
(7)家族への支援とｻﾎﾟｰﾄシステム</td></tr>
<tr><td>3.高齢者のリハビリテーションと看護</td><td colspan="2">1)高齢者の社会参加への援助
(1)国際生活機能分類<ICF>の活用
(2)社会参加・生活満足の要素と影響因子
(3)社会参加に向けての多職種共同による支援
2)高齢者にとってのリハビリテーションの意義
3)機能障害と日常生活動作のアセスメント
4)高齢者の機能障害と経過に合わせたリハビリテーション：廃用症候群予防のためのリハビリテーション
5)高齢者の自立に向けての支援の実際
・筋力維持と向上・関節拘縮予防・転倒予防のための観察と機能評価(スクリーニングテスト)と訓練
・ADL 訓練・IADL 訓練・社会参加に向けての観察と機能評価(スクリーニングテスト)と訓練
・言語・摂食・嚥下機能の観察と機能評価(スクリーニングテスト)
・口腔機能・嚥下機能維持のための訓練</td><td>寝たきり状態・廃用症候群予防のためのリハビリテーション
・自動・他動運動
・関節可動域訓練
・日常生活動作訓練

・口腔機能・嚥下機能の評価
・口腔機能・嚥下機能維持のための訓練：誤嚥予防のための訓練、間接嚥下訓練</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="6">・筆記試験</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="6">・系統看護学講座 専門分野 老年看護学：医学書院 e テキスト
・系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護：医学書院 e テキスト</td></tr>
<tr><td>備 考</td><td colspan="6">実務経験有：医療機関にて看護業務、リハビリ業務経験有</td></tr>
</table>

科目名	小児看護学Ⅰ(概論･保健)	単位数	2	授業形態	講義
講師名	大竹口 寿恵	時間	30	履修年次	2 年次前期
ねらい	小児期の特徴と心身の成長発達や健康の保持･増進､健康上の課題を理解し､援助できる基礎を学ぶ。				
目 標	1.小児期の特徴と小児看護の役割を理解できる。 2.小児保健の動向と医療･福祉対策を理解できる。				

講義内容(概要)		
	1.小児看護の特徴	1)小児看護の対象 2)小児看護の役割 3)小児看護と小児医療の変遷 4)小児と家族の諸統計からみた健康課題(出生と家族･小児の死亡)
	2.子どもの権利	1)子どもの権利の変遷 2)小児看護における倫理(アドボガシーとインフォームドアセント)
	3.小児各期の成長･発達	1)成長発達の原則と影響因子 2)形態的成長 3)機能的成長 4)心理社会的成長 5)発育発達評価
	4.小児と社会	1)家族の特徴と家族役割 2)子どもの社会問題 3)子どもへの虐待の特徴 4)子どもの臓器移植
	5.法律と政策	1)児童福祉 2)母子保健 3)医療費の支援 4)予防接種 5)学校保健

評価方法	･筆記試験
使用テキスト	･系統看護学講座 専門分野 小児看護学［1］小児看護学概論 小児臨床看護総論：医学書院 e テキスト
備 考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有

科目名	小児看護学Ⅱ	単位数	1	授業形態	講義、演習
講師名	大竹口 寿恵、高野 理恵子	時間	30	履修年次	2 年次後期
ねらい	小児期の特徴と心身の成長発達や健康の保持・増進、健康上の課題を理解し援助できる基礎を学ぶ。				
目 標	1.成長・発達に応じた子どもと家族の看護を理解できる。 2.小児看護に特有な援助技術を理解できる。				

講義内容(概要)			
	1.小児各期の成長・発達に応じた生活の支援	1)乳児期の成長・発達に応じた生活への支援 (1)栄養と授乳、離乳　(2)事故防止 (3)運動と遊び《課題》　(4)日常生活の世話 2)幼児期の成長・発達に応じた生活への支援 (1)食生活と食育 (2)運動と遊び《課題》 (3)事故防止と安全教育 (4)日常生活の自立と世話 3)学童期の成長・発達に応じた生活への支援 (1)食生活と食育 (2)学習と遊び《課題》 (3)事故防止と安全教育 (4)生活習慣病、疾病の予防 (5)学校生活への適応 4)思春期の成長・発達に応じた生活への支援 (1)身体、心理、社会性の発達、二次性徴 (2)日常生活における衛生、健康問題 (3)生活習慣病予防	おむつ交換 更衣 抱っこの方法 事例に合わせたプレパレーション
	2.病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護	1)病気に対する子どもの理解と説明 2)治療における意思決定の支援 (1)インフォームドアセント (2)プレパレーション 3)病気や診療、入院が子どもに与える影響と看護 4)外来における子どもと家族への看護	
	3.検査や処置を受ける子どもと家族への看護	1)子どもの身体のアセスメント (1)バイタルサイン (2)小児特有の観察(心音、呼吸音、意識レベル) (3)身体計測(身長、体重、頭囲、胸囲) 2)診療(検査・処置)に伴う技術と看護 (1)採血 (2)採尿 (3)骨髄穿刺・腰椎穿刺 (4)薬物療法(与薬、注射、輸液) (5)吸引 (6)酸素療法 (7)経管栄養	身体計測 採血時の子どもの支え方 吸引、吸入

評価方法	・筆記試験(90%)　・課題(10%)
使用テキスト	・系統看護学講座 専門分野 小児看護学［1］小児看護学概論 小児臨床看護総論：医学書院 e テキスト ・系統看護学講座 専門分野 小児看護学［2］小児臨床看護各論：医学書院 e テキスト
備 考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">小児看護学Ⅲ</td><td>単位数</td><td>1</td><td>授業形態</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>講師名</td><td colspan="2">渡辺 章充、亀山 千里、佐藤 亜紀子、
瀧田 玲子、潮田 仁美</td><td>時間</td><td>30</td><td>履修年次</td><td>2 年次後期</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="6">小児期の特徴と心身の成長発達や健康の保持･増進､健康上の課題を理解し援助できる基礎を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>目 標</td><td colspan="6">1.健康課題を持つ子どもと家族の看護を理解できる。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">講義内容
(概要)</td><td>1.小児特有な疾患</td><td colspan="5">1)先天性心疾患
2)川崎病
3)幽門狭窄症
4)てんかん
5)ネフローゼ症候群
6)白血病
7)腸重積･ヒルシュスブルング症(巨大腸)
8)壊死性腸炎
9) I 型糖尿病
10) 気管支喘息
11)染色体異常
12)感染症(水痘､麻疹､風疹、ムンプス､RS､マイコプラズマ)</td></tr>
<tr><td>2.急性期における子どもと家族への看護</td><td colspan="5">1)急性症状がある子どもと家族への看護：川崎病
(1)痛み (2)発熱 (3)脱水 (4)下痢･嘔吐
(5)呼吸困難 (6)意識障害 (7)けいれん
2)救急救命処置が必要な子どもと家族の看護
(1)一次救命処置､トリアージ
(2)事故､外傷と看護(誤飲､熱傷)
3)周手術期における子どもと家族の看護
幽門狭窄症､腸重積､壊死性腸炎
4)出生直後から集中治療が必要な子どもと家族の看護
5)感染症の子どもと家族の看護(水痘､風疹､ムンプス､RS､マイコプラズマ)</td></tr>
<tr><td>3.慢性的な疾患･障害がある子どもと家族への看護</td><td colspan="5">1)慢性的な経過をたどる疾患の子どもと家族の看護：
ネフローゼ症候群、I 型糖尿病､気管支喘息､てんかん
2)先天性疾患のある子どもと家族の看護：先天性心疾患
3)障害のある子どもと家族の看護：染色体異常
4)在宅療養中の子どもと家族の看護</td></tr>
<tr><td>4.終末期における子どもと家族への看護</td><td colspan="5">1)子どもの死の理解と看護
2)終末期にある子どもと家族への緩和ケア
3)子どもを亡くした家族の看護</td></tr>
<tr><td>5.特別な状況にある子どもと家族への看護</td><td colspan="5">1)虐待を受けている子どもと家族への看護
2)災害を受けた子どもと家族への看護</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="6">･筆記試験</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="6">･系統看護学講座 専門分野 小児看護学［1］小児看護学概論 小児臨床看護総論：医学書院 e テキスト
･系統看護学講座 専門分野 小児看護学［2］小児臨床看護各論：医学書院 e テキスト</td></tr>
<tr><td>備 考</td><td colspan="6">実務経験有：医療機関にて看護業務、診療業務経験有</td></tr>
</table>

科目名	母性看護学Ⅰ(概論･保健)	単位数	2	授業形態	講義
講師名	深澤 千映子	時間	30	履修年次	2 年次前期
ねらい	女性のライフサイクルを理解し､健康生活の維持･増進への援助ができる基礎を学ぶ。				
目 標	1.女性のライフサイクルと母性看護の役割を理解できる。 2.母性保健の動向と医療･福祉対策を理解できる。				
講義内容 (概要)	1.母性看護の基盤となる概念	1)母性看護の中心概念 ･母性･父性(親性)とは　　･母子関係と家族発達 ･家族を中心としたケア(Family－centered care) ･女性を中心としたケア(Woman－centered care) 2)母性看護実践を支える概念 ･ヘルスプロモーション　　･エンパワーメント ･ウェルネス　　･セルフケア 3)リプロダクティブヘルスに関する概念 ･リプロダクティブヘルス／ライツ ･セクシャリティトジェンダー ･性の多様性			
	2.女性のライフサイクル各期における健康課題	1)思春期女性の特徴と健康 ･第二次性徴､性意識･性行動の発達 ･性周期､月経異常､性感染症(STI)､性教育 2)成熟期女性の特徴と健康 ･人の発生(受精､着床)家族計画､不妊症･不育症 ･女性生殖器の疾患(子宮筋腫､子宮内膜症) 3)更年期･老年期女性の特徴と健康 ･ホルモンの変化と閉経､更年期症状 ･骨盤臓器脱､老人性膣炎､外陰炎			
	3.母性看護と倫理	1)対象の権利と擁護 2)自己決定の尊重 3)プライバシーの保護 4)人間の性の生殖や医療における倫理 ･人工妊娠中絶 ･出生前診断 ･生殖補助医療			
	4.母子の健康生活と法律･制度	1)母子保健の統計指標 ･出生率､合計特殊出生率､周産期･新生児死亡率 ･妊産婦死亡に関する統計 ･死産､流産､人工中絶に関する統計 2)母性看護に関する組織と法律 ･母子保健法(周産期医療システム含む)､母体保護法 3)母子保健に関連する施策 ･子育て支援施策(少子化対策､健やか健康 21) ･女性の就労に関する法律(外国人妊産婦への支援含む) ･暴力虐待防止に関する法律(DV(ドメスティックバイオレンス)防止法)､性暴力			
評価方法	･筆記試験				
使用テキスト	･系統看護学講座 専門分野 母性看護学［1］母性看護学概論：医学書院 e テキスト ･系統看護学講座 専門分野 母性看護学［2］母性看護学各論：医学書院 e テキスト				
備 考	実務経験有：医療機関にて看護業務、助産師業務経験有				

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">母性看護学Ⅱ</td><td>単位数</td><td>1</td><td>授業形態</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>講師名</td><td colspan="2">市川 麻以子、坂本 雅恵</td><td>時間</td><td>30</td><td>履修年次</td><td>2 年次後期</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="6">女性のライフサイクルを理解し、健康生活の維持・増進への援助ができる基礎を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>目 標</td><td colspan="6">1.妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期にある対象の特徴が理解できる。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">講義内容
(概要)</td><td>1.妊娠の生理と異常</td><td colspan="5">1)妊娠の経過と胎児の発育
・妊娠の生理
・胎児の発育と生理
・母体の生理的変化
・妊娠期の心理社会的特性
・妊婦と胎児の診断、検査(トラウベ桿状聴診器の活用、胎児心音聴取方法)
2)妊娠の異常
・ハイリスク妊娠
・異所性妊娠
・妊娠期感染症
・妊娠疾患(悪阻、妊娠高血圧症候群、血液型不適合)
・多胎妊娠
・妊娠持続期間異常(流産、早産、過期妊娠)</td></tr>
<tr><td>2.分娩の生理と異常</td><td colspan="5">1)分娩経過と胎児の健康状態
・分娩の要素
・分娩経過(第 1 期～第 4 期)(CTG の判読、児頭回旋)
2)分娩の異常
・産道異常
・娩出力異常
・胎児異常による分娩障害
・胎児付属物異常
・胎児機能不全
・分娩時異常(常位胎盤早期剥離、出血、産科ショック、DIC)
・帝王切開</td></tr>
<tr><td>3.産褥の生理と異常</td><td colspan="5">1)産褥経過
・身体的変化(退行性変化、進行性変化)
・心理社会的変化
・健康状態
2)産褥の異常
・子宮復古不全
・産褥熱、産褥血栓症
・産褥精神障害</td></tr>
<tr><td>4.新生児の生理と異常</td><td colspan="5">1)新生児の生理
・新生児の生理的変化
2)新生児の異常
・新生児仮死 ・分娩外傷 ・低出生体重児
・高ビリルビン血症 ・ビタミン欠乏 ・低血糖</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="6">・筆記試験</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="6">・系統看護学講座 専門分野 母性看護学［2］母性看護学各論：医学書院 e テキスト</td></tr>
<tr><td>備 考</td><td colspan="6">実務経験有：医療機関にて看護業務、助産師業務経験有</td></tr>
</table>

科目名	母性看護学Ⅲ	単位数	1	授業形態	講義、演習　✿技術テスト
講師名	遠藤　香織、大和田　茂美、渡辺　真奈美	時間	30	履修年次	2 年次後期
ねらい	女性のライフサイクルを理解し、健康生活の維持・増進への援助ができる基礎を学ぶ。				
目　標	1.妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期にある対象に応じた看護が理解できる。				

講義内容(概要)			
	1.妊娠期の看護	1)妊婦・胎児の健康状態とアセスメント 2)妊婦と家族への看護 (1)マイナートラブルへの対応 (2)妊婦の日常生活とセルフケア (3)出産・育児に向けた準備状態	妊婦体験 レオポルド触診法
	2.分娩期の看護	1)産婦・胎児の健康状態とアセスメント 2)産婦及び家族への看護 (1)産痛緩和と分娩進行に伴う対応 (2)早期母子接触 (3)産婦家族への心理への看護 3)帝王切開時の看護	
	3.産褥期の看護	1)褥婦の経過とアセスメント (1)進行性、退行性変化 (2)生活パターンとセルフケアレベル 2)褥婦と家族への看護 (1)日常生活とセルフケア ・子宮底マッサージと悪露 ・会陰・肛門裂傷のケア ・乳房ケア(観察のポイント、直接母乳、搾乳) (2)親役割獲得への支援 3)死産、障害をもつ児を出産した褥婦、家族への看護	産褥体操
	4.新生児期の看護	1)新生児の子宮外生活への適応状態のアセスメント 2)新生児の看護 (1)全身状態の観察 (2)環境の調整 (3)身体の清潔　《課題》 (4)栄養 (5)退院診察	✿沐浴 授乳方法
	5.看護の実際	1)周産各期におけるアセスメントの統合	

評価方法	・筆記試験
使用テキスト	・系統看護学講座　専門分野　母性看護学［2］母性看護学各論：医学書院 e テキスト
備　考	実務経験有：医療機関にて看護業務、助産師業務経験有

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">精神看護学Ⅰ(概論･保健)</td><td>単位数</td><td>2</td><td>授業形態</td><td>講義、演習</td></tr>
<tr><td>講師名</td><td colspan="2">村上 恵、石塚 明典</td><td>時間</td><td>30</td><td>履修年次</td><td>2 年次前期～後期</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="6">ライフサイクルや日常生活における精神の健康問題を理解し、援助できる基礎を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>目 標</td><td colspan="6">1.精神的健康を維持･向上させる実践活動を理解できる。
2.精神の健康を守る精神看護の役割を理解できる。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">講義内容
(概要)</td><td>1.精神看護学とは</td><td colspan="2">1)精神保健医療福祉対策と動向
2)精神看護学と精神保健の考え方
･ICF の考え方
･心のケアと現代社会
･災害･自殺問題
3)精神の健康と障害、健康のマネジメント
･精神障害の一次予防･二次予防･三次予防
･危機とストレス(災害･学校･職場･看護師のﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽ)
･コーピング、危機介入</td><td rowspan="6">リカバリプラン

ストレングスアセスメントｼｰﾄ</td></tr>
<tr><td>2.心の機能と発達</td><td colspan="2">1)脳の仕組みと精神機能･精神症状
2)自我の構造と機能
3)不安と防衛機制
4)心の仕組みと人格の発達･発達理論</td></tr>
<tr><td>3.回復への支援</td><td colspan="2">1)レジリエンス
2)リカバリ
3)ストレングスモデル
4)エンパワーメント</td></tr>
<tr><td>4.リエゾン精神看護</td><td colspan="2">1)身体疾患を持つ患者の精神看護
2)リエゾン精神看護活動</td></tr>
<tr><td>5.精神保健の歴史･日本における法律の変遷</td><td colspan="2">1)精神保健福祉の改革ビジョン
2)障害者自立支援法</td></tr>
<tr><td>6.地域における精神保健と精神看護</td><td colspan="2">1)地域生活を支える社会資源･サービス･サービスを担う職種
2)社会資源の活用とケアマネジメント</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="6">･筆記試験</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="6">･系統看護学講座 専門分野 精神看護学［1］精神看護の基礎：医学書院 e テキスト
･系統看護学講座 専門分野 精神看護学［2］精神看護の展開：医学書院 e テキスト</td></tr>
<tr><td>備 考</td><td colspan="6">実務経験有：医療機関にて看護業務経験有</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">精神看護学Ⅱ(援助関係の振り返り)</td><td>単位数</td><td>1</td><td>授業形態</td><td>講義、演習</td></tr>
<tr><td>講師名</td><td colspan="2">永山 美子、石川 博康、高木 則織</td><td>時間</td><td>30</td><td>履修年次</td><td>2 年次前期</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="6">ライフサイクルや日常生活における精神の健康問題を理解し、援助できる基礎を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>目 標</td><td colspan="6">1.精神的関わりとしての対人関係のあり方を理解できる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">講義内容
(概要)</td><td>1.患者－看護師関係</td><td colspan="4">1)患者－看護師関係の重要性
2)ペプロウの看護理論
3)患者理解の方法
4)信頼関係構築のための方法</td><td rowspan="3">プロセスレコード</td></tr>
<tr><td>2.精神障害をもつ人とのコミュニケーション</td><td colspan="4">1)精神障害をもつ人とのコミュニケーションの特徴
・疾患による影響
・治療による影響
2)コミュニケーション技法
・非言語的コミュニケーション技法
・言語的コミュニケーション技法
・関係構築のためのテクニック
・アサーション</td></tr>
<tr><td>3.精神障害をもつ人との関係の振り返り</td><td colspan="4">1)振り返りの重要性
2)プロセスレコード
(1)プロセスレコードとは
(2)プロセスレコードの変遷
(3)プロセスレコードの書き方
(4)異和感の対自化
(5)問題の明確化
(6)プロセスレコードの実際
実体験から看護場面の振り返り</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="6">・筆記試験(80%)　・プロセスレコード＋再構成(20%)</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="6">・系統看護学講座 専門分野 精神看護学［2］精神看護の展開：医学書院 e テキスト</td></tr>
<tr><td>備 考</td><td colspan="6">実務経験有：医療機関にて看護業務経験有</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">精神看護学Ⅲ(精神障害者の看護)</td><td>単位数</td><td>1</td><td>授業形態</td><td>講義、演習</td></tr>
<tr><td>講師名</td><td colspan="2">井出 政行、宮本啓子</td><td>時間</td><td>30</td><td>履修年次</td><td>2 年次後期</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="6">ライフサイクルや日常生活における精神の健康問題を理解し、援助できる基礎を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>目 標</td><td colspan="6">1.精神障害を持つ対象の看護を理解できる。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">講義内容
(概要)</td><td>1.精神症状の理解</td><td colspan="5">1)思考の障害
2)感情の障害
3)意欲の障害
4)知覚の障害
5)意識の障害
6)記憶の障害
7)局在症状</td></tr>
<tr><td>2.主な精神疾患</td><td colspan="5">1)統合失調症
2)気分[感情]障害：双極性障害および関連症候群、抑うつ症候群
3)神経性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害：
不安障害、強迫性障害、適応障害
4)生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群：摂食障害、睡眠障害
5)精神作用物質使用による精神および行動の障害：ｱﾙｺｰﾙ依存症
6)神経発達障害群：
知的障害、コミュニケーション障害、自閉症スペクトラム障害注意欠如・多動性障害
(ADHD)、限局的学習障害、運動障害群、パーソナリティ障害
7)精神疾患の治療、検査</td></tr>
<tr><td>3.入院治療と看護</td><td colspan="5">1)精神科における治療と看護
2)精神科における身体ケア、セルフケアへの援助
3)精神保健福祉法
・精神保健指定医と入院形態、精神医療審議会
・隔離・身体拘束・緊急事態(自殺)時・災害時の看護・リスクマネジメント・安全管理
4)家族への看護
5)社会復帰、社会参加への支援
・精神科リハビリテーション
6)社会資源の活用と調整
・精神科デイケア・ナイトケア
・精神科訪問看護
・行政との連携
・アウトリーチ
7)地域移行支援の展開、多職種との連携</td></tr>
<tr><td>4.精神保健医療福祉の変遷と看護</td><td colspan="5">1)制度の変遷
2)精神科領域で必要な法律と制度
主要な精神保健医療福祉対策</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="6">・筆記試験</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="6">・系統看護学講座 専門分野 精神看護学［1］精神看護の基礎：医学書院 e テキスト
・系統看護学講座 専門分野 精神看護学［2］精神看護の展開：医学書院 e テキスト</td></tr>
<tr><td>備 考</td><td colspan="6">実務経験有：医療機関にて看護業務、診療経験有</td></tr>
</table>

科目名	チーム医療	単位数	1	授業形態	講義
講師名	天貝 恵子、宮本 佳代子	時間	30	履修年次	3 年次前期
ねらい	チーム医療における看護師の役割を理解し、看護の質を高めるためのマネジメントの基礎を学ぶ				
目 標	1.チーム医療について理解できる。 2.チーム医療の実践について理解できる。 3.看護管理の概念、マネジメントについて理解できる。				

講義内容(概要)		
	[チーム医療] 1.チーム医療	1)チーム医療とは 2)チーム医療に必要な機能 (1)連携・協働 (2)コミュニケーション 3)チーム医療の場とその特徴 (1)病院 (2)地域 4)チーム医療における各職種の専門性と役割 5)特定領域におけるチーム医療 6)看護職の責任と役割 7)チーム医療の今後の課題
	[看護マネジメント] 1.看護とマネジメント	1)看護管理学とは 2)看護におけるマネジメント (1)医療・看護の質の保証 (2)医療の機能分化
	2.看護ケアのマネジメント	1)ケアのマネジメントと看護職の機能 2)患者の権利の尊重 3)安全管理 4)看護業務の実践 (1)看護基準と看護手順 (2)看護ケア提供システム (3)情報の活用
	3.マネジメントに必要な知識と技術	1)組織とマネジメント 2)ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟとマネジメント 3)組織の調整：チームアプローチ、チームｶﾝﾌｧﾚﾝｽ 4)組織と個人 5)看護職の教育
	4.看護職のｷｬﾘｱマネジメント	1)ｷｬﾘｱとｷｬﾘｱ形成 2)看護職のｷｬﾘｱ形成
	5.看護サービスのマネジメント	1)看護サービス提供のしくみづくり 2)人材マネジメント 3)施設・設備環境のマネジメント 4)物品のマネジメント 5)情報のマネジメント
	6.看護を取り巻く諸制度	1)看護職の法的責任 2)看護政策と制度

評価方法	・筆記試験
使用テキスト	・系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学［1］看護学概論：医学書院 e テキスト ・系統別看護学講座 専門分野 看護の統合と実践［1］看護管理：医学書院 e テキスト
備 考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有

科目名	医療安全	単位数	1	授業形態	講義、演習
講師名	西森 志乃、丹野 朋子	時間	30	履修年次	3 年次前期～後期
ねらい	医療安全の概念を理解し、事故の要因と防止の基礎を学ぶ。				
目 標	1.医療安全の概念が理解できる。 2.安全な看護実践について理解できる。 3.安全な看護を提供するための判断力と実践する力を高めることができる。				

講義内容 (概要)			
	1.医療安全の概念	1)医療安全の意味と重要性 2)医療安全に関わる動向	
	2.ヒューマンエラー	1)エラーに関係のある人間の特性 2)ヒューマンファクター工学 3)ヒューマンエラー対策の戦略と戦術	
	3.医療事故と医療安全	1)事故の構造と分類 2)事故の分析手法	
	4.医療安全に関する法的責任	1)刑事上の責任 3)行政上の責任 2)民事上の責任 4)服務規程等による処分	
	5.医療安全に関する看護倫理	1)安全確保と倫理 2)倫理的課題	
	6.事故発生時の対応	1)インシデントアクシデント報告 2)発生後の対処方法	
	7.医療における事故防止体制の構築・システム	1)自己モニタリング 3)看護医療システム 2)労働条件・労働環境	
	8.医療安全とコミュニケーション	1)正確なコミュニケーションの重要性 2)他職種とのコミュニケーション 3)患者とのコミュニケーション	
	9.看護に関連する事故と安全対策	1)診療の補助 《課題》 (1)注射業務 (2)針刺し事故防止と事故後の対応 (3)注射業務に用いる機器(輸液ポンプ・シリンジポンプ) (4)輸血業務 (5)内服与薬業務 (6)チューブ・カテーテル管理 2)療養上の世話 《課題》 (1)転倒・転落 (2)摂食中の窒息・誤嚥	＊グループワーク 輸液ポンプ、 シリンジポンプ ＊グループワーク 転倒・転落 誤嚥
	10.多重課題への対処	1)多重課題の危険性 《課題》 2)多重課題発生時の対処原則	＊グループワーク 多重課題

評価方法	・筆記試験
使用テキスト	・系統別看護学講座 専門分野 看護の統合と実践［2］医療安全：医学書院 e テキスト
備 考	実務経験有：医療機関にて看護業務、助産師業務経験有

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">災害看護･国際看護</td><td>単位数</td><td>1</td><td>授業形態</td><td>講義、演習</td></tr>
<tr><td>講師名</td><td colspan="2">井川 洋子、大森 美保</td><td>時間</td><td>30</td><td>履修年次</td><td>3 年次前期～後期</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="6">災害看護を通して、人々の健康と生活の向上に向けた支援の基礎を学ぶ。
国際看護に関連する基礎を学ぶ</td></tr>
<tr><td>目 標</td><td colspan="6">1.災害看護の概念を理解する
2.災害時における基礎的知識、看護実践が理解できる
3.国際看護について理解できる</td></tr>
<tr><td rowspan="12">講義内容
(概要)</td><td>[災害看護]
1.災害医療の基礎知識</td><td colspan="4">1)災害の種類と健康被害
(1)災害の種類 (2)災害と健康被害
2)災害医療の特徴
(1)災害時の医療対応の考え方
(2)災害医療実施のための体系的なアプローチ
(3)トリアージ
(4)災害サイクルから考える災害医療
(5)我が国の災害医療対応の整備
(6)マスギャラリングと NBC 災害への対応
(7)災害と情報 ― 組織間連携
(8)近年の災害における課題･対策</td><td rowspan="12">トリアージ</td></tr>
<tr><td>2.災害看護の基礎知識</td><td colspan="4">1)災害看護の定義
3)災害看護の特徴と看護活動
2)災害看護の対象
4)災害看護に必要な情報
5)災害看護活動におけるアセスメント
6)災害看護と法律</td></tr>
<tr><td>3.災害サイクルに応じた災害看護</td><td colspan="4">1)急性期･亜急性期
2)慢性期･復興期
3)静穏期</td></tr>
<tr><td>4.災害とこころのケア</td><td colspan="4">1)災害がもたらす精神的影響
2)こころのケアとは
3)被災者、遺族のこころのケア</td></tr>
<tr><td>[国際看護]
1.国際看護の基礎知識</td><td colspan="4">1)世界の健康問題の現状
2)国際社会における看護の対象
(1)在留外国人 (2)在外日本人
(3)帰国日本人 (4)国際協力活動を必要とする人々</td></tr>
<tr><td>2.グローバルヘルス</td><td colspan="4">1)インターナショナルからグローバルヘルスへ
2)プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション
3)人間の安全保障</td></tr>
<tr><td>3.国際協力のしくみ</td><td colspan="4">1)国際救援･保健医療協力分野で活躍する国際機関
2)国際救援の調整 3)開発協力</td></tr>
<tr><td>4.国際協力としての看護の実際</td><td colspan="4">1)国際協力としての看護の現状と課題
2)発展途上国の看護 3)難民への看護</td></tr>
<tr><td>5.多様な文化と看護</td><td colspan="4">1)文化を考慮した看護</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="6">･筆記試験</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="6">･系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践［3］災害看護学･国際看護学：医学書院 e テキスト</td></tr>
<tr><td>備 考</td><td colspan="6">実務経験有：医療機関にて看護業務経験有</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目名</td><td>看護統合技術</td><td>単位数</td><td>1</td><td>授業形態</td><td colspan="2">講義、演習 ＊グループワーク
★OSCE</td></tr>
<tr><td>講師名</td><td>馬場 智子、井上千寿子</td><td>時間</td><td>30</td><td>履修年次</td><td colspan="2">3 年後期</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="6">臨床場面における看護技術を実践できる能力を身につける</td></tr>
<tr><td>目 標</td><td colspan="6">1.臨床場面における看護技術を実践できる</td></tr>
<tr><td rowspan="2">講義内容
(概要)</td><td>1.事例に基づく技術演習</td><td colspan="2">1)複数の技術を含めた統合的な技術の実際
※グループ、個人でのシミュレーション学習
(1)課題提示
(2)自己学習、グループ学習
(3)発表、演習
(4)まとめ
①呼吸障害のある患者への援助
口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管内吸引
②排泄障害がある患者への援助
導尿、膀胱留置カテーテル管理
③栄養障害がある患者への援助
経管栄養管理、経静脈管理、
中心静脈管理、シリンジポンプ、輸液ポンプ、
輸血の管理
④治療・処置別看護の実際
薬品管理、与薬管理・輸血管理</td><td colspan="3">＊グループワーク
口腔内吸引、鼻腔内吸引、
気管内吸引
導尿、膀胱留置カテーテル
挿入中の管理
経管栄養法による流動食の
注入
輸液速度調整(輸液ポンプ、
シリンジポンプ)
点滴、ドレーン等を留置し
ている患者の援助
輸血管理、薬品管理</td></tr>
<tr><td>2.統合技術テスト</td><td colspan="2">1)オリエンテーション
2)OSCE</td><td colspan="3">★OSCE</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="6">・筆記試験(60%)　・OSCE(40%)</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="6">・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［3］基礎看護技術Ⅱ：医学書院 e テキスト</td></tr>
<tr><td>備 考</td><td colspan="6">実務経験有：医療機関にて看護業務経験有</td></tr>
</table>